

第5学年 国語科学習指導案

単元名 筆者の伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめよう
 教材名 「天気を予想する」

1 単元の目標

- 図・表・グラフ・写真を用いた説明文に関心を持ち、興味をもって読もうとしている。【関】
- 筆者が伝えたいことを論の進め方、図表などの活用に着目しながら読み取ることができる。【読】
- 文にはいろいろな構成があることに気付くことができる。【言】

2 指導と評価の計画

時間	○ねらい・学習活動	評価の観点			学習活動における具体的評価規準 ()は評価方法	
		関	読	言		
(一次)	筆者の伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめる。	○「天気を予想する」を読み、学習の見通しをもつ。				
1・2		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞き、感想をもつ。 ・感想を交流し、学習の計画を立てる。 ・問いと答えが繰り返されている文章構成に気付く。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「天気を予想する」を読み、感想をもとうとしている。 (発言・ノート) ・感想を交流し、学習の計画を立てている。 (発言) ・問いと答えが繰り返されている文章構成に気付いている。 (発言・ノート)
(二次)	筆者の伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめる。	○文章の構成と筆者の説明の仕方の工夫を読み取る				
3		<ul style="list-style-type: none"> ・「的中率が高くなった理由」を本文と資料を関連させて読む。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「的中率が高くなった理由」を本文と資料を関連させて読んでいる。 (発言・ワークシート)
4		<ul style="list-style-type: none"> ・「天気予報が100%的中するのが難しい理由」を本文と資料を関連させて読む。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「天気予報が100%的中するのが難しい理由」を本文と資料を関連させて読んでいる。 (発言・ワークシート)
5		<ul style="list-style-type: none"> ・「突発的・局地的な天気の変化を予想する手立て」を読む。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・「突発的・局地的な天気の変化を予想する手立て」を読んでいる。 (発言・ワークシート)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの段落と資料を関連させて読む。 ・本文と資料との関連から文章構成のよさについて考える。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの段落と資料を関連させて読んでいる。 (発言) ・本文と資料との関連から文章構成のよさについて考えている。 (発言・ノート)

(三次) 7 8	筆者の伝えたいことを読み、自分の考えをまとめる。	○要旨をまとめ、感想を発表する。			
		・「天気を予想する」の要旨をまとめる。 ・要旨を話し合い、自分の考えをまとめる。	○	○	・「天気を予想する」の要旨をまとめている。(発言・ワークシート) ・要旨を話し合い、自分の考えをまとめている。(発言・ワークシート)

3 単元設定の理由

- 本教材は、理科で天気学習をし、気象衛星の雲の写真で天気を予想する学習を行った児童にとって身近で興味深く読み進むことができる教材である。しかし、天気を予想する仕組みはよく知られていないため、その方法を知ることによって、科学技術の進歩が生活にもたらすよさを理解することができる。ただし、科学技術の進歩によっても予測しづらい現象があることが分かり、身の回りの自然と人間の関わりをもう一度確かめる学習ともなっている。

また、本教材は最初に文章全体を覆う大きな問いがあるのではなく、小さな問いがあつて答えがある。すると次の問いが生まれてくるということを三回繰り返す文章構成になっている。そのため、既習事項を使って段落相互の関係をとらえやすい。さらに、図やグラフを用いながら事実を説明する部分と筆者の考えを述べている部分などもとらえやすくなっている。それらの関係をとらえ、筆者の意図を読み取ることで要旨をとらえることができやすい。そして、論の進め方や図やグラフなどの活用について感想を発表し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

ここでの学習は、次の単元「グラフや表を引用して書こう」で、グラフや表を使って、自分の意見を書く活動や、「ゆるやかにつながるインターネット」で、筆者の説明・挙げている例を自分に身近な例に置き換えて読む活動につながっていく。

○

児童の実態については、省略しています。

- 指導にあたっては、第一次で、「天気を予想する」を読み、学習の見通しをもつ。「○○は、△△だな。」という感想をもち、その感想をもとにして、学習の計画を立てる。また3つの問いを見つけ、問いが繰り返されている文章構成になっていることをとらえ、話題提示とまとめの段落について確認をする。

第二次では、第一の問い「的中率が高くなった理由」、第二の問い「的中率が100%にならない理由」、第三の問い「突発的・局地的な天気の変化を予想する手立て」のそれぞれについて資料と本文とを関連させて読み取っていく。表や写真・グラフと本文を矢印などで

つなげる活動や授業の最後に、本文中の大切な言葉を使ってまとめを書くなどの活動は毎時間行い、繰り返しの学習の中で内容の理解を図るようにしていく。その際、原稿用紙を用いて字数を制限して書くことで、学習した内容を簡潔にまとめることができるようにする。この活動は、要旨をまとめる活動や、最後に自分の考えをまとめる活動につながっていく。また、「突発的」「局地的」という言葉を自分の経験から語らせ、考えさせる。このように、自分の経験とも関わらせ、「天気を予想する」という主題を身近なものとしてとらえることができるようにしていきたい。文章構成のよさを読み取る学習については、説得力がある文章になっていることや、資料を用いることで、イメージがわきやすくなったり本文の確認ができやすかったりする効果を実感できるようにする。

第三次では、学習してきたことをもとにして要旨をとらえ、自分の考えをまとめる。要旨をまとめる際には、「生き物は円柱形」の学習を想起させ、話題提示と筆者の考えをまとめればよいことを思い出させるようにする。それに加えて、問いに関わる内容が入っている要旨の方がよいことに気付くことができるようにする。また、自分の考えを書く時には、「情報を活用しながらも、自分で見たり感じたりすることが大切だと思われることは他にもあるだろうか」という問いを投げかけることにより、自分の考えを書いていく。いろいろな考えに接することができるように、教材提示装置で児童の考えを提示しながら発表する。筆者の考えをもとに自分の考えをまとめる学習を通してより深く理解することができるようにしていきたい。

以上のように、本単元では、「読むこと ウ」を受けて「筆者の意図を読み、自分の考えを書く。」という言語活動を通して、本校の研究主題「主体的に読み、目的に応じて自分の言葉で豊かに表現する子どもの育成」に迫りたい。

本時案（第8時）

本時の目標	要旨を話し合い、自分の考えをまとめることができるようにする。
準備物	ワークシート、付箋、ヒントカード、教材提示装置
子どもの活動の流れ	教師の支援と評価
1 本時のめあてをつかむ。	○前時の学習をふりかえり、本時はこれまでに学習したことをもとにして、要旨を話し合い、自分の考えをまとめることを確かめる。
要旨を話し合い、自分の考えをまとめよう。	
2 要旨を話し合う。	○自分のとらえた要旨をグループで交流することにより、友達の要旨と似ているところや違っていているところに気付くようにする。 ○事前に児童のとらえた要旨に丸を入れておくことで、自信をもって発表できるようにする。 ○友達の要旨について、友達のいいところや自分と同じところ、違う考えなどを詳しく付箋に書くようにする。 ○要旨について、グループの中で共通しているところを中心に話し合い、発表することで、大切な言葉や文を確認できるようにする。
3 自分の考えをまとめる。	◎「情報を活用しながらも、自分で見たり感じたりすることが大切だと思われることは他にもあるだろうか」と問いかけることにより、文章をより深く理解できるようにする。 ○筆者と同じ考えか異なる考えかとその理由を、自分の考えとして要旨の続きに書いてまとめる。 ○児童にとって身近な体験を例に挙げて考えることができるように、見ること、聞くこと、匂うこと、味わうこと、触れることを提示する。 ◆書きにくい児童には、具体例を示したヒントカードを提示することにより、書きやすくする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">要旨を話し合い、自分の考えをまとめることができている。 (発言・ワークシート)</div>
4 本時のまとめをする。	○自分の考えを掲示することで、分かりやすい発表ができるようにする。 ○自分とは違う考えを知ることにより自分の見方や考え方を広げられるようにする。 ○自分の考えや友達の感想を発表することで、本時のまとめとする。